

中学部3年生 ふるさと教育の取り組みについて

前回の広報「ちぶ」では、中学部3年生のふるさと教育(総合的な学習の時間)の取り組みについて紹介させていただきました。生徒は昨年12月に活動を終えましたので、どのような結果を残したのか(成果を上げたのか)紹介します。

だんだん物語 PJ…地域のお年寄りの人生を写真や文字でまとめた本を作るPJ(活動)です。

3名の生徒が一人ずつ、対象となるお年寄りの本を完成させました。「対象者さんに喜んでもらえる本をつくること」にこだわってつくった本は、それぞれの対象者さんに大変喜んでいただきました。中には、「毎日必ず一度は目を通している。」というお年寄りもいるほどです。

ふるさと納税 PJ…ふるさと納税の返礼品を開発し、新規ふるさと納税者をふやすPJ(活動)です。

役場担当課(総務課)に何度も提案しながら、二つ返礼品を採用していただきました。それは、「墓掃除」と「絵はがき」です。これらの返礼品は、知夫村役場のホームページから検索することができます。絵はがきの写真は生徒が自ら撮影し、知夫の四季が感じられる素敵な仕上がりです。関心のある方は、是非チェックしてみてください。

いっぱいあつど野菜 PJ…学校給食に地元の野菜を提供してくださる方を増やすPJ(活動)です。

これまでの「給食への野菜提供の仕組み」を見直し、新しく6名の協力者を見つけることができました。変更した仕掛けの一つに、「野菜の集荷方法」があります。それは、提供する野菜を学校に持って行くことができない方のために郵便の配達員が集荷するというものです。12月の発表会では、「画期的な考えである。」と村長にもほめていただきました。

今年度も、生徒は多くの成果を残しました。しかしその陰に、生徒を支え一緒に考えてたり動いたりしてくださった方がたくさんいます。その皆さんが、本気になって生徒と関わってくださったからこそ、生徒は多くの成果を出し、多くの力を身につけました。この学習に関係してくださった皆様、ご協力ありがとうございました。



平成29年改訂の学習指導要領で「社会に開かれた教育課程」の理念が掲げられました。「社会に開かれた教育課程」とは、学校の教育課程を通じて、子ども達が社会や世界とつながり、よりよい人生や社会を自ら創り出していける力を積極的に育もうとする、教育課程の役割やあり方についての考え方です。知夫小中学校では、その推進に向け平成30年度に「ふるさと教育(総合的な学習の時間)」の取り組みを9年間のつながりを意識しながら整理し、これまで取り組んできました。今回その取り組みの成果が認められ、第4回NITS大賞(独立行政法人教職員支援機構)にて優秀賞を受賞しました。知夫小中学校での取り組み「学びがつくる3方よし～社会に開かれた総合的な学習の時間～」での、よりよい地域をつくる視点から、地域の環境を生かし、関係者や団体に助けってもらったり、施設等を活用したりすることで子ども達の学びをより豊かなものにした取り組みが評価された形となりました。しかし、本校での取り組みはまだ始まったばかりです。これからの社会を創り出していく子ども達が、社会や地域と向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、さらに教育課程において明確化し育ていきたいと考えています。【文責 校長:若本】

